

高松市教育の情報化 News No.1 (創刊号)

Leaflet for Smart School in Takamatsu City

～ 学校教育の情報化に関する情報をいち早く先生方にお届けします ～

巻頭言

高松市教育委員会教育長 藤本 泰雄

本市では、国の『GIGAスクール構想の加速による学びの保障』を受け、教育の情報化に向けた環境整備を推進しています。その主な内容は、高速大容量の校内ネットワークと1人1台端末の整備で、来年度には、すべての小中学校において、オンライン授業が実施できるように、ICT教育の環境を整備します。

一人ひとりの端末がオンラインでつながる学びの環境は、下の図にあるように、個別的な学びや協働的な学びなど、様々な場面での活用が考えられます。また、ビデオ会議システムを生かした学びは、世界中の多様な他者とつながり、新たな価値を創造するという目標がありますが、まずは第2波、第3波に備えて、オンライン授業が行えるように、機器等の整備に全力を挙げてまいります。

パイロット校など、いくつかの学校では、先進的にオンライン授業に取り組み、互いにつながることによって、児童生徒が楽しく、また、真剣に学ぶ様子が印象的で、オンライン授業の多様な可能性を感じているところです。

高松市総合教育センターが創刊した「高松市教育の情報化 News」は、月1回～2回の発行を予定し、本市がめざす教育の情報化に関する情報を小中学校の皆様方にいち早く発信してまいります。未来を切り拓く児童生徒のために、ICTを活用した新しい学びの創造に向けて、学校と共に取り組んでまいりたいと思います。



個別的な学び

- 知識の定着を図る(AI)ドリル
- 学びの履歴(キャリアパスポート)
- 個に応じた調査活動
- 個別な表現物の作成、保存



協働的な学び

- 即時的な共有、協働作業
- 協働での意見の整理
- 電子黒板等を活用した話し合い
- 協働制作



一人一台
クラウドの活用

個別最適化された学びの保障
世界中の多様な他者とともに新たな価値を創造する



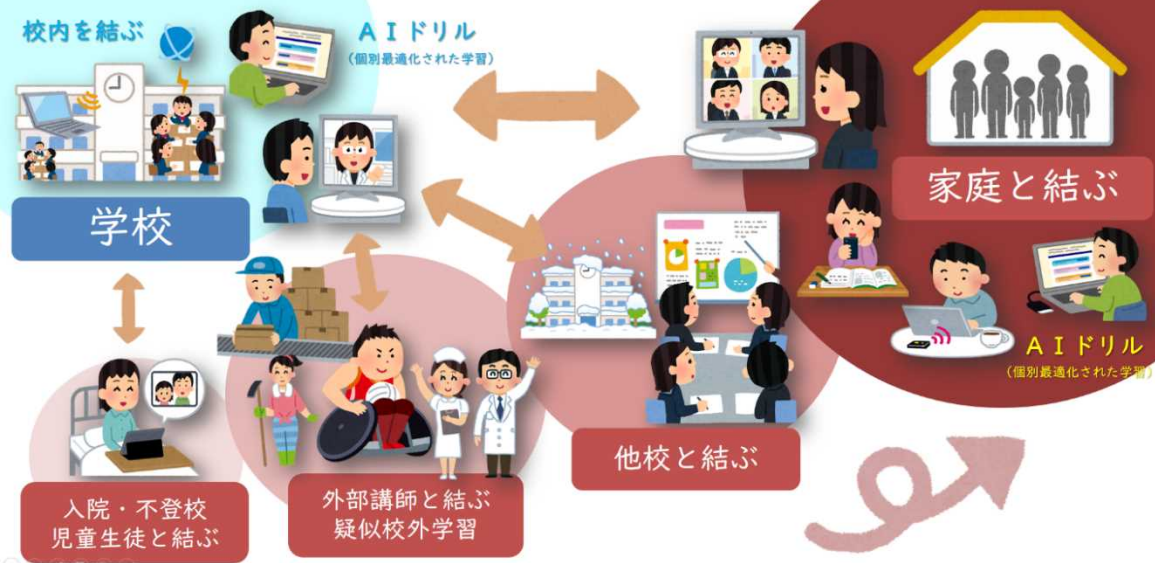
ビデオ会議システムを生かした学び

- 他校(他学級)との合同授業
- 外部講師との交流
- 仮想校外学習
- 不登校、入院児童生徒の授業参加
- 学校と家庭との双方向授業



高松市がめざすオンライン授業の構想

「いつでも」「どこでも」「だれでも」の実現



本市がめざすオンライン授業の構想は、上の図に示しているとおり、学校内でつながることからはじまり、入院や不登校の児童生徒、外部講師、他校とつなぐほか、臨時休業の際には、家庭ともつなぐなど、多様な学びを可能にするものです。「いつでも」「どこでも」「だれでも」つながる強みを生かして、新たな学びを創造していきたいと思えます

ICT 活用における10の学習活動場面と+αの視点

「学びのイノベーション事業」実践研究報告書（平成26年度より）



A 一斉学習

B 個別学習



C 協働学習

+α
日常化の
視点

1人1台端末と電子黒板を活用した学習活動場面は、上の図に示す10の活動場面のほか、日常の様々な学校の生活場面でも活用できると考えています。ICTを効果的に活用する学習を柔軟かつ創造的に考え、具体的な場面をイメージしていきましょう。